

心筋梗塞、脳梗塞患者における潜在性骨髄増殖性腫瘍の頻度 (後方視的研究)

○研究の目的、調査内容：

真性赤血球増加症多血症(polycythemia vera; PV)、本態性血小板血症(essential thrombocythemia; ET)、原発性骨髄線維症(primary myelofibrosis; PMF)は、それぞれ循環赤血球量の増加、血小板数の増加、骨髄の線維化や貧血を特徴とする骨髄増殖性腫瘍(myeloproliferative neoplasm; MPN)です。

一部のPV、ET症例では骨髄線維症や白血病へ移行しますが、15年間、PV、ET症例を追跡した報告では、血栓症が最も多い合併症でした。このため、MPNの症例には、血栓予防のために、リスク分類に応じて、瀉血処置、アスピリンやヒドロキシウレアの投与などが行われています。

MPNにおける、血栓症の頻度、危険因子の臨床研究は既に報告されていますが、脳梗塞や心筋梗塞を発症した症例の中に、どの程度の頻度でMPNが含まれるのかについてはまったく解析がなされていません。脳梗塞、心筋梗塞患者さんの中に、MPNの可能性のある患者さんが存在するようであれば、MPNの早期発見が心血管イベントの再発防止につながる可能性があると考えられます。

そこで、バイオバンク・ジャパンに登録されている脳梗塞や心筋梗塞患者さんのDNA検体を使用させていただき、MPNの発症に関与するJAK2、CALR、MPL遺伝子変異検査を行います。そして、脳梗塞、心筋梗塞の患者さんの中に、どのくらいMPNが存在するのか、臨床的特徴など疫学調査を行います。

JAK2遺伝子変異のある患者さんについて以下の研究協力施設でカルテ調査を行います。

調査内容は採血(WBC,RBC,Hb,Ht,PLT)データ、生活習慣、喫煙歴、

以下の疾患の有無、診断・発症日(心筋梗塞、脳梗塞の再発を含む)

心筋梗塞・脳梗塞、真性赤血球増加症、本態性血小板血症、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、高血圧、高脂血症、糖尿病です。データはバイオバンク・ジャパンを通して匿名加工された情報が提供されます。

この研究の対象となる患者さんは、以下の1、2を満たす患者さんです。

- 1) バイオバンク・ジャパンで登録された心筋梗塞もしくは脳梗塞の症例
- 2) 60歳以下の症例

この研究は順天堂大学医学部研究等倫理委員会の承認を受けて行われます。

- ・研究実施期間 倫理委員会承認日～西暦2026年3月31日まで
- ・研究責任者 筒井深雪(助教)

過去のデータを使用する研究であり、新たな検査や費用が生じることはなく、また、データを使用させていただいた患者さんへの謝礼等ありません。

患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離れた上で使用します。また、研究成果を学会や学術雑誌で発表されますが、患者さん個人を特定できる個人情報を含みません。

調査研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は大学・研究者に帰属し、あなたには帰属しません。

この研究は、順天堂大学血液内科学講座研究費によって実施しておりますので、外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画し実施するものです。従いまして、研究結果および解析等に影響を及ぼすことはありません。また、本研究の責任医師および分担医師には開示すべき利益相反はありません。

○【問い合わせ先】

順天堂大学医学部血液学講座

電話：03-3813-3111(代表電話)

研究担当者：筒井深雪